

# 「人権について語り合いました」



昨年度の阿蘇市人権作文集『かけはし』の作品の中から一部を紹介いたします。皆さんもぜひ、家族や身近な人との関係を見つめ直し、人権や差別について話し合う機会を持ちましょう。

## じいちゃんが教えてくれたこと

山田小学校 6年(現阿蘇北中1年) 和田武瑠たける

じいちゃんが死んだことをぼくが知ったのは、夏休みに入ってから朝のことでした。それは、ちょうど野球の試合の日でした。ぼくは、いきなりのことだったので、びっくりして声も出ませんでした。

布団に横になってるじいちゃんの顔を見てみると、なみだがぼろぼろと出てきました。じいちゃんの顔をさわってみると、冷たかったです。ぼくの頭の中は、何も考えられず、真っ白になっていました。すると、お母さんが、

「今日は、じいちゃんが最後まで見とるよ。がんばってこなりたい。」

と声をかけてきました。ぼくは、

「今日は野球に行きたくない。」

と言いました。お母さんは、

「つらいけど、がんばらなりたい。」

と、やさしい声で返してきました。

ぼくは、じいちゃんのことを頭からはなれなくて、野球どころではありませんでした。でも、その日はどうしても野球の試合に行かなくてはいけませんでした。その日の試合で、城北大会に出場できるかどうかが決まるからです。仕方なく、ぼくはお母さんが運転する車に乗って、試合会場に向かいました。

ぼくは、車の中でお母さんに、  
「ねえ、じいちゃんはいつ死んだと？」

とたずねてみました。すると、お母さんは、  
「昨日の夜、病院で亡くなったみたい。」  
と答えてくれました。

入院したとき、病院の先生から、  
「一週間ぐらいで亡くなるかもしれない。」

と言われていたじいちゃん。それでも何日かたって、自分の力で呼吸をするようになり、がんばって生きようとしていました。そして、あと少しでぼくたちと会って、話もできるところまでできていました。

ぼくは、じいちゃんのことを(すごい)と思いました。ぼくは(もうだめだ)と思ったときは、すぐにあきらめるのに、じいちゃんはきつてもがんばって生きようとするからです。

じいちゃんは、入院してから一ヶ月以上生き続けました。とうとうじいちゃんと話をするにはできなかつたけど、じいちゃんは最後までよくがんばったと思います。そんなじいちゃんをぼくは尊敬しています。

ぼくは、じいちゃんから『がんばる』ということを教えてもらいました。これから、じいちゃんに教えてもらったことを胸に、何でも努力していこうと思います。そしてじいちゃんの方まで生きたいと思います。

最後に、  
「天国でゆっくりと休んでください。」  
と言って、じいちゃんを見送りました。

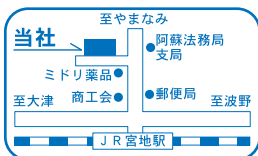
平成二十一年度  
阿蘇市人権作文集「かけはし」より

### お部屋探しのパートナー



阿蘇不動産賃貸管理室  
有限会社 **フォース**

### = ご来店のご案内 =



(社)全国宅建建物取引保証協会会員  
(社)熊本県宅地建物取引業協会会員  
賃貸不動産管理業協会会員  
移住・住みかえ支援機構会員  
熊本県知事免許(6)2807



契約者優先につきお早めに!!  
各物件の詳細については、ご来店のうえ  
納得のいくまでお確かめ下さい。

☎(0967)22-4660

広告